

桜の木の枝に、小さな蕾が付き、膨らみ始め、花開く準備を始める季節となりました。冬を惜しむかのように、寒さが残る今日この頃ですが、少しずつ暖かい風が吹き始めています。本日は緊急事態宣言が発令している中、私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を開いてくださり、ありがとうございます。

平成三十年四月五日にこの深谷中学校へ入学した私たちは、約千日の時を経て、今日卒業します。

入学後、異なる小学校の生徒との出会い、今まで受けたことのない授業、つかったことのない設備、そういった環境の変化に戸惑う日々が続きました。

そんな中行った自然教室では、PAA プロジェクト足柄アドベンチャーでは、高い所での活動の恐怖を仲間との協力や励まし合いで克服しました。そうすることで仲間として信頼し、これからの三年間への期待を膨らませました。

二学期に入ると、初めての体育祭、合唱コンクールがありました。体育祭では、どのクラスも自然教室や日常生活で培った団結力を生かして、初めての体育祭を全力で楽しみました。色別優勝は一年二組、学年優勝は一年三組と勝敗はついたものの、順位には変えられない「何か」を手に入れたような気がしました。

合唱コンクールでは、クラス内でのぶつかり合い、すれ違いがあったものの、意見が積み重なるほどに合唱の質は上がり、クラスが求めるカタチへと変化していきました。結果は一年一組が金賞となり、一年生の行事の結果は全てのクラスが何らかの形で優勝することができました。こうして、学年が終わるころにはクラスとしても絆を深め、一つの集団として団結することができました。


二年生になると、中学校初の後輩をもち、一年生の時よりも少し成長した私たちは先輩としての自覚をもち始めました。特に部活動では、後輩への接し方で悩むことが多くありました。

しかし、そうして自ら考え、行動することで、個々の人間としても成長できたと思います。

東京への校外学習では、仲間と一緒に計画すること、また、それを実行することの難しさ、大切さを実感することができました。ここで学んだことを、のちの修学旅行で生かすはずでした。

それから数か月後、何事もなく進級し、修学旅行へ行くという私たちの期待は未知のウイルスによってへし折られ、当たり前の日常すら、閉ざされてしまいました。そんな中、いつもの年とは大きく違う形で、雨の中行われた体育祭。けれども、この三年間の中で一番の盛り上がりを見せたと思います。

今年度の大きな行事は体育祭しか行うことができませんでした。しかし、少しずつ「いつもの」学校生活が戻ってきたことで、「当たり前の日常」が一番大切な思い出であり、私たちにとってかけがえのないものであることを再認識することができました。



このような三年間、特に最後の波乱の一年間を楽しく過ごせたのは、先生方のご指導のおかげです。

それから健康に安全に過ごせたのは家族の存在があったことです。それから、地域の方々にも温かく見守っていただきました。本当にありがとうございました。どうかこれからもよろしくお願いします。

私たちは今日深谷中学校を卒業し、来月からはそれぞれ別の道へと歩みます。成功や挑戦に失敗はつきものです。だから、私たちは未来を恐れずに、前へ前へと突き進んでいきたいと思えます。

そして、ここにはいない在校生に伝えたい言葉があります。これまでに辛く、苦しいことがあったと思えます。おそらくこれからもあると思えます。でも、絶対にあきらめずに乗り越えてください。その積み重ねが人を強く、強くします。

最後に、今まで私たちを支えてくれたすべての方々に、今一度感謝します。  
本当にありがとうございました。

令和三年三月十一日

卒業生代表 高木 榛斗